

地域とともにある
学校づくりのために

Community School

CS 通信

これまで発行した
CS通信や「コミュニ
ティ・スクール」に関
する情報はこちらへ



北海道 子ども地域支援

検索

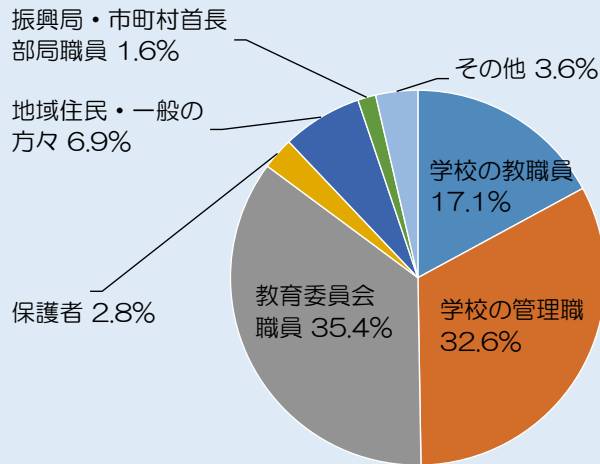
《子ども地域支援グループHP》

北海道教育庁学校教育局義務教育課子ども地域支援グループ

コミュニティ・スクール推進協議会のアンケートから

本年度のコミュニティ・スクール推進協議会は、7月19日(金)の根室管内を皮切りに全14管内で実施し、合計600名の方に参加をいただきました。本号では、参加者に御協力をいただいたアンケートの集計結果をお知らせします。

1 参加者の所属や職種について



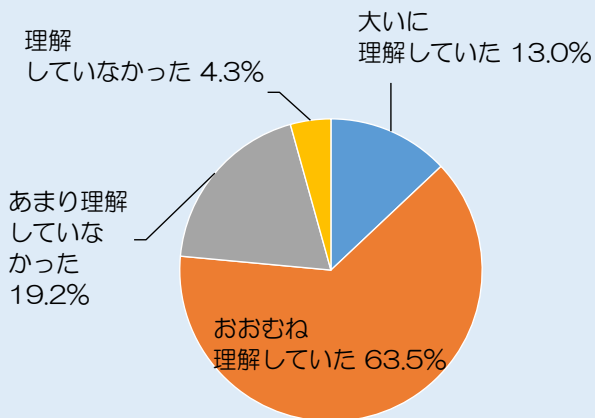
CSを導入し、地域とともにある学校づくりを進めるためには、学校・家庭・地域の共通理解が大切です。

本年度の推進協議会は、学校の管理職や教職員のほか、保護者や地域住民等にも参加していただき、様々な立場の方を交えての熟議や実践交流を行うことができました。

2 推進協議会前後のCSに関する理解の状況

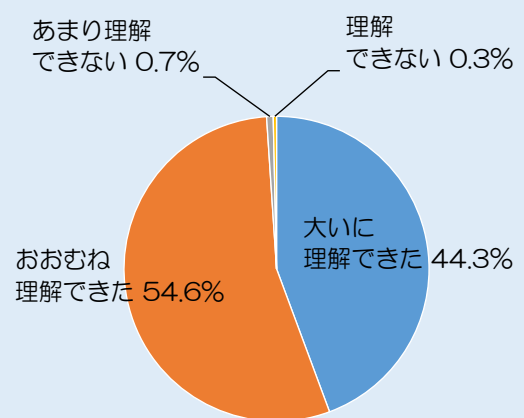
参加前

CSの仕組みや意義等についての理解の状況



参加後

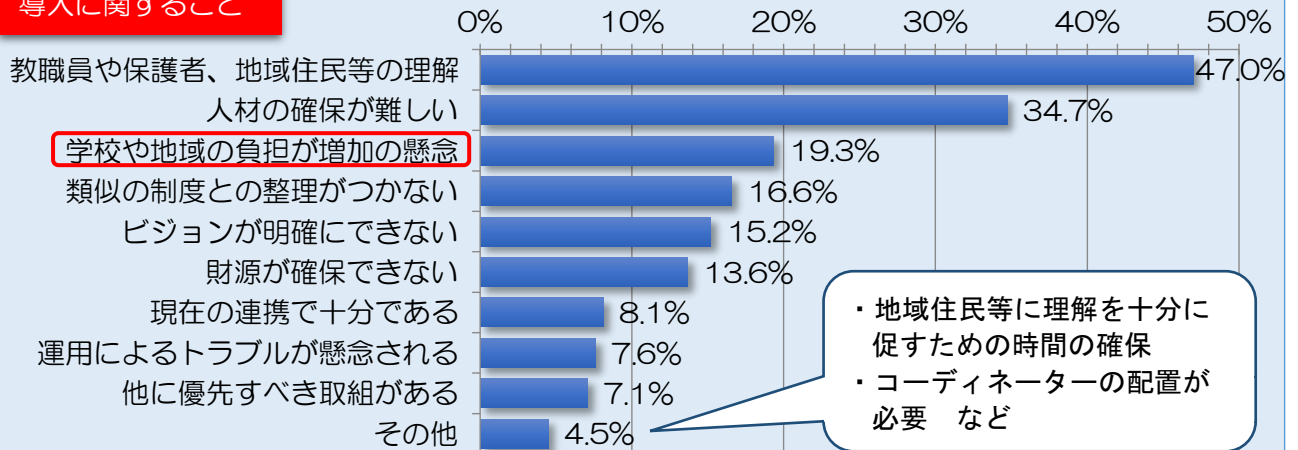
CSの必要性についての理解の深まり



参加前は、CSの仕組みや意義等について「あまり理解していなかった」または「理解していなかった」と回答した参加者の割合が23.5%でしたが、参加後には、ほとんどの方がCSの必要性について理解が深まったと回答しました。

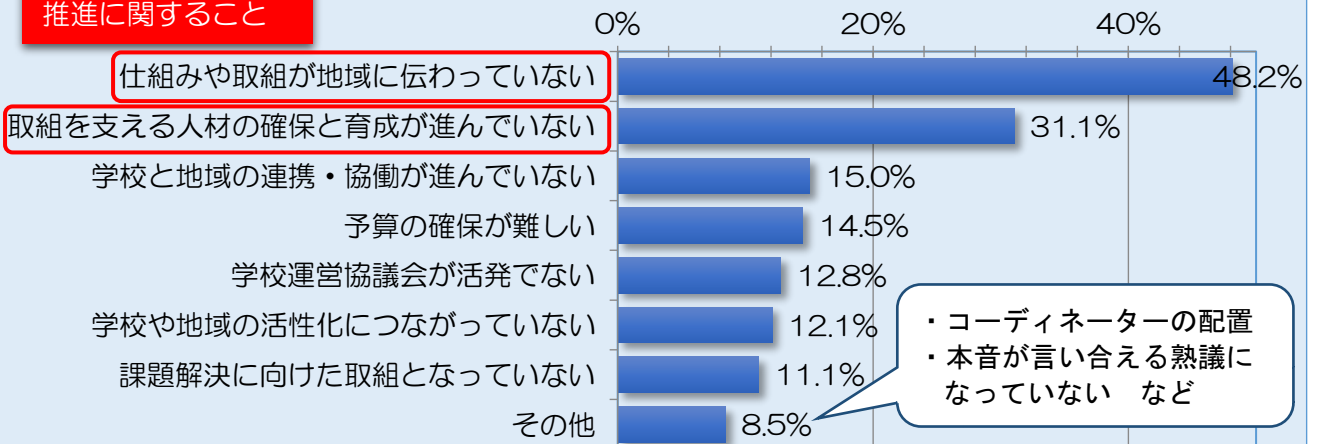
3 コミュニティ・スクールの導入及び推進上の課題（複数回答）

導入に関すること



導入に関する課題については、「教職員や保護者、地域住民の理解」や「人材の確保」に次いで、「学校や地域の負担増の懸念」の割合が多くなっています。導入して数年経った学校や地域からは、「放課後、先生方が本来業務に充てる時間ができた」「地域住民は学校に関わることを生きがいに感じている」という成果が見えてきていますので、こうした実践事例が課題解決の糸口になるのではないかと考えています。

推進に関すること



推進については、取組の周知や人材の確保に関することが、導入後も課題となっています。学校運営の充実に向けて必要な支援を学校運営協議会で話し合い、人材の確保やネットワークづくりについては、地域学校協働本部が担うなどの役割分担を工夫することにより、課題解決が図れるのではないかと考えています。

道立特別支援学校のCS実践事例集が発行されました。

道立特別支援学校2校分（夕張高等養護学校、新得高等支援学校）のCS実践事例集が発行され、特別支援教育課のHPに掲載されました。是非、参考にしてください。

～道立特別支援学校のCSに関する情報は～

HP アドレス：<http://www.dokyo.i.pref.hokkaido.lg.jp/hk/tkk/index.htm>

問合せ先：特別支援教育課学校教育指導グループ TEL 011-204-5774



【担当から】次年度のCS推進協議会は、今年度のアンケート結果や推進協議会で聞かれた参加者の声、本道の導入状況、国の動向等を踏まえ、CSと地域学校協働本部の一体的な推進をコンセプトに内容を改善する予定です。（担当：子ども地域支援G 主査 吉村 公孝）